

第3回大崎地区における高校の在り方検討会議 会議録

日 時 平成30年12月26日（水）午後1時30分から午後3時まで
場 所 宮城県大崎合同庁舎501・502会議室
出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

1 開 会

【司会】

それでは定刻となりましたので、「第3回大崎地区における高校の在り方検討会議」を始めさせていただきます。本日は大変お忙しいところ、御出席を賜りありがとうございます。会議に入ります前に、マイクの使用についてお願いがございます。御発言の際には、担当者がマイクをお渡しいたしますので、お知らせ願います。

初めに、開会に当たり宮城県教育庁教育次長 高橋剛彦から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【高橋教育次長】

皆様こんにちは、教育次長の高橋です。本当に忙しい12月の、26日になりましたけれども、お集まりいただきましてありがとうございます。この会議の1回目、2回目はそれぞれ皆様から、望まれる学校像、我々がお示した案について、忌憚のない様々な御意見をいただいたところでございます。今回3回目ということで、改めて案をお示しして議論をいただきたいと思っております。一つは高校での多様な学びの機会をどう確保していくか、それから教育環境の充実をどう図っていくか、また高校においてどのような人材を育成していくべきかという大きな観点から、この東部ブロックにおける高校の在り方について、議論を進めていきたいと思っております。具体的な案については事務局からお示ししたいと考えております。今回我々が考えている案に対して一定の共通理解をいただきながら次の段階に進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】

続きまして出席者について紹介させていただきます。出席者については、出席者名簿のとおりですが、今回初めて出席していただいた方を御紹介させていただきます。

美里町教育委員会教育長の友友義孝様です。南郷高等学校の佐藤善則校長は所要のため、本日は山田武教頭が出席しております。

なお、大崎市PTA連合会長の中川博樹様、遠田郡PTA連合会長の関原英明様は所用のため、本日は御欠席です。また、宮城県高等学校PTA連合会大崎支部長の五十嵐亮様は到着が遅れております。

ここからの会議の進行は当検討会議の開催要項に基づき、座長の高橋教育次長にお願いします。

3 報 告

第2回大崎地区における高校の在り方検討会議での意見等について

【高橋教育次長】

それでは次第のとおり、進めてまいりたいと思います。まず、次第の3 報告「第2回大崎地区における高校の在り方検討会議での意見等」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局（西城教育企画室教育改革班長）】

事務局の西城と申します。私より資料の説明をさせていただきます。

これまで2回の会議を開催してまいりましたが、9月の第1回目の会議では、大崎地区の東部ブロックにおける高校の現状や地域として望まれる学校の在り方などに関して意見交換を行いました。また、11月の第2回目の会議では、第1回目の会議における御意見を踏まえて、地区において望まれる学校像について意見を頂戴したところです。

本日は、まず、報告事項として、前回会議においていただいた御意見等について振り返りたいと思います。資料1を御覧ください。前回会議において皆様からいただいた御意見をまとめた資料になります。大きく4つに分類して表示しております。

まず、「1 全般的なこと」として、大崎地区の教育全般に関する御意見ですが、一つ目、「『大崎地区の子供は大崎で育てる。』という視点が必要である。」という御意見をいただきました。大崎地区の先生方やPTAの皆様が共通して持っている思いということで、その思いを具現化するような学校が必要だということ、また長期にわたって先の大崎を見据えた再編をしてほしいというお話でした。

二つ目。「子供たちが行きたいと思うような学校、また高校での学びが次のステップにつながるような力をつけることができる学校運営を望む。」という御意見をいただきました。例えばということでおっしゃっておられましたが、学力の問題で先生から言われるままの高校に進学する生徒も少なからずいると考えられることから、そういった子供たちが自ら望み是非行きたいと言うような学校にしてほしいという御意見でした。

三つ目。「学校の再編は大変なことであるが、人口減少の実態がある中で、部活動などの課外活動も含めた教育環境の充実のためにはやむなしと考える。」という御意見でした。中学校において、いわゆる周辺校においては休部状態の部活があるという実状を踏まえての御意見でした。

次に「2 学校配置、学科配置に関すること」として、一つ目、「地域の要請や学校の配置バランスを考慮して、どんな学科やどんな学びの視点が必要かということの整理が必要

である。」との御意見でした。地域の中で育て、地域を大切にしていくという視点から、どのような学びが必要なのか、また、他地区からの通学の状況なども考慮してバランスのとれた学科の配置を検討する必要があるとのお話がありました。

学科バランスに関連して、四つ目の御意見、特定の高校に関するものですが、中部地区から通学する生徒が多いことから、「入学実績や交通状況から、中部地区の中学校卒業生数や学科バランスも考慮すべきである。」という御意見がありました。

また、併せて、五つ目の御意見、特に県内で設置の少ない特定の学科に関しては、「県全体でもどのようなバランスで学科を配置していくかという視点も大事である。」との御意見をいただきました。

戻りまして二つ目の御意見、「現在の高校生や、今後、高校に入学する小・中学生の高校に対する期待や、教育現場の視点にも立った、新たな学びや新たな学科やコースの設定を整理すべきである。」。中学生や高校生、先生の視点をクロスさせながら新たな学びについて検討できればよいというお話がありました。

三つ目、「社会的状況や実現可能性に考慮しつつも、それだけにとらわれない将来を見据えた学校、学科を設置する視点が必要である。」との御意見をいただきました。これからの子供たちにとってどのような学校が良いのかということが大きな視点だと思うというお話でした。また50年後、100年後といった大きな社会の変化を考慮して、目先ではない先のことを見据えた学校づくりというものを検討していく必要があるというお話をいただきました。

次に、項目3になりますけれども、前回の会議でお示いたしました望まれる学校像について、「3 望まれる学校像『タイプ1：複数の職業系専門学科を有する高校』に関すること」ですが、「再編を行う上でも既存の専門学科は継続すべきだ。」という御意見をいただいております。具体的には、家政科や商業に関する学びの継続に関する御意見がありました。また、総合ビジネス的な高校があればよいというお話もありました。

次に、「4 望まれる学校像『タイプ2：学び直しや社会的自立に必要な能力の育成に主眼を置いた高校』に関すること」では、「成績は優秀だが、コミュニケーション能力に問題がある生徒もいるため、高校における通級指導などの体制整備が必要である。」、また、「学び直しや社会的自立に必要な能力の育成を主眼とした高校を設置するのではなく、それを一つの視点として、いずれの学校でも取り組む体制が必要である。」という御意見などを頂戴しました。今後も特別な支援を必要とする生徒は増えていくのではないかという認識の中で、新しい学校ができるという非常にわくわくする中に、是非未来を見据えた新しい仕組みを考えてほしいというお話をいただきました。報告事項について、資料1の説明は以上です。

【高橋教育次長】

ただいま御説明いたしました件について、1回目から続いている議論を整理するとこの

ような形になると思うのですけれども、どなたか御意見等ありましたら、いかがでしょうか。

美里町の教育長は今回初めての御出席になりますが、項目としては大きな話ではあるのですけれども、何かお感じになったことがありましたらお話ししていただければ。

【美里町教育委員会 大友教育長】

2回ともいろいろな行事があり、代理で出席させていただいておりました。皆様本当にお疲れ様です。今回3回目でやっと出席できました。これまでの2回の会議のまとめということでお聞きしたところでございます。大崎の子供は大崎で育てると示されているようですが、実際は大崎圏内外から入学されている生徒さんがいるわけですね。「大崎の子は大崎で」が基本でということなのでここに出ているということよろしいのでしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

教育企画室長の佐々木でございます。ただいま担当から御説明いたしましたのは第2回目の会議で、委員の皆様からの発言をまとめた資料ということになりますが、その時に御発言いただいた趣旨としましては、話の流れもあつてのことではあるのですが、「再編するのは人口減少が進む中では致し方ないことであると思うけれども、大崎の子供は大崎で育てるということを加味した上で再編等の作業を進めていくべきではないか。」というものであつたと受け止めております。あわせて、別の委員の方からですけれども、そういう思いを具現化するような学校がこの地域には必要であるという視点のお話があつたということで整理しております。

【高橋教育次長】

その他の委員の方々よろしいでしょうか。それでは次に進めてまいります。次第4の議事「大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像」について、事務局より説明をお願いします。

4 議事

大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像について

【事務局（西城教育企画室教育改革班長）】

資料2を御覧ください。第1回目及び第2回目でいただきました御意見を踏まえて、大崎地区東部ブロックにおける高校の将来像について示しております。これまでの会議の中では、学科等学習内容に関することとして、現在の学びの継続についての御意見が複数あつたところです。また、普通科と職業系学科のバランスに配慮して、職業系の学びの機会を確保すべきとの御意見もありました。これらを踏まえて、資料2の1枚目ですが、まず

上の四角の中に、現在の東部ブロックに設置されている学科を整理しております。

左上から、松山高校、涌谷高校、南郷高校に設置されている普通科、以下時計回りに、南郷高校の産業技術科及び小牛田農林高校の農業技術科・農業科学コースと農業土木コースが該当する農業科、松山高校の家政科、小牛田農林高校の総合学科、鹿島台商業高校の商業科の5つの学科が東部ブロック内に設置されております。

このほか、職業系学科の代表的な専門学科として工業科がありますが、東部ブロック内にはないものの、隣接するブロックに古川工業高校の機械科、科学技術科、土木情報科、建築科、電気・電子科があります。また、学科ではありませんが、これまでの会議において出てきている「学び直し」に力を入れている高校として、定時制の田尻さくら高校がブロック内に設置されている状況となっております。

ブロック内の学校再編に当たっては、これらの学びについて、四角の真ん中になりますが、「東部ブロックに所在する学校全体で学びの選択肢を確保し、職業人材を育成する。」というコンセプトを掲げております。

さらに、既存の学科以外でも、これまでの会議においては、図の中央、矢印の左側になりますが、介護など高齢社会で不足する人材の育成を行う必要があるといった御意見から福祉に関する学び、また、矢印の右側、職業系の学びの機会の確保という観点から新たな学びを含めた形で職業人材を育成していくことを考えております。

これらを踏まえまして、生徒にとってよりよい十分な学びの環境を確保するため、図の一番下になりますが、具現化のための手法として、既存校における学科改編、併せて既存校の再編統合による職業教育拠点校の設置を想定しているところです。

資料をめくってください。ただいま申し上げました具現化の手法のうち、「新たな職業教育拠点校」の設置の方向性についてまとめております。まず、高校設置の視点として、視点1と視点2にまとめておりますが、視点1、「職業系の学びの充実」では、職業人材の育成の観点を踏まえて、その手法につきまして「専門分野における基礎・基本の重視」、「学習の選択幅を拡大した教育内容の充実」、「インターンシップ等の実践的教育の充実」、「多様な進路希望への対応」の4点にまとめているところです。

隣の視点2「基礎学力の定着」につきましては、これまでの会議の中でお話がありましたけれども、「卒業後に社会に出て通用することを目標に、学び直しの授業やコミュニケーション能力を高めるような取組を行っている」といった現状や「不登校等の生徒を支援する環境整備が必要である」といった御意見なども踏まえて、視点として設定しているものです。手法といたしましては、「基礎学力に関わる知識・技能・思考力・表現力等を大切にしたい学びの実践」、「習熟度に応じた教育などきめ細かい学習指導」の2点にまとめているところです。

これらの視点を踏まえまして、新たな職業教育拠点校とはどのような高校なのか、どのような生徒を育成していくのか、いわゆるコンセプトになりますが、図の真ん中になります。左側には、職業人材の育成という観点から、生徒の養う力として、「明確な勤労観・職

業観」及び「課題解決能力や将来の職業人として活躍できる力」、こちらはコミュニケーション能力等を含む力となりますが、これらを養う力として挙げています。これらをまとめ、学校のコンセプトとしては、右側になりますけれども、「多様な学びの場の提供による社会的・職業的自立に必要な能力を持った生徒の育成」ということを掲げているところです。

なお、職業教育拠点校につきましては、図の一番下になりますけれども、既存の校舎や設備の活用に限定するものではなく、よりよい教育環境の確保のため、こういった視点を含めて柔軟な発想により検討し生徒から選ばれる魅力ある高校にしていきたいと考えております。議事について、資料2の説明は以上です。

【高橋教育次長】

第1回目では、この地域全体の数値的なものと、環境や今後10年間の子供たちの数等、その辺を含めて説明いたしました。2回目では先ほども資料に整理してありましたが、そういう中であってどういう学校がこれから求められるのか、これからの子供たちに選ばれる高校をどう作っていくかという視点で御議論をいただきました。3回目は今御説明したとおり、具体的に高校の将来像がどう在るべきかということで、いわゆる既存学科の改編、統合による職業教育の拠点校を一つの案としてお示したところでございます。このことについて御意見をいただきたいと思っております。御質問でも結構ですけれどもいかがでしょうか。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

松山高校教育後援会の奥山です。これから議論を進めていく中できちんとしておきたいのですが、拠点という言葉の使い方ですけれども、いくつかの学校をそのまま残しておいて、その中の1校を拠点とするのか、それとも全部ひっくるめて一つにまとめて拠点とするのか、どちらなのでしょう。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

資料2の一番下にありますとおり、一つは既存校の学科改編で、そこで残る学科がいくつかあって、その中で必要な学びを内容に応じて学科を改編するという手法ともう一つはそれと併せていくつかの高校を再編統合することで職業教育拠点校を設置するという手法で、その二つの組合せにより、この東部ブロックにおける高校の将来像を検討してみてもどうかというまとめ方をしております。したがってまして全ての高校をまとめるというイメージではなくて、いくつかのバリエーションがあってもよいのではないかという提案です。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

では確認しますけれども、登米総合産業高校のような学校をイメージすればよいという

ことですね。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

既存の高校でいいですと、それが一番当てはまるかと思います。

【高橋教育次長】

よろしいでしょうか。それでは他の委員の方で。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

南郷高校の同窓会長の佐々木です。前回お聞きしようかと思ったのですが、11月3日土曜日の河北新報に県立高校将来構想の答申案が出されていて、「専門性の高い教育を行う学科で、学級規模に関する特例を検討することを新たに盛り込んだ」と書かれています。これは職業学科を指しているのではないかと思うのですが、そうした場合は県教委で考えている、一学年最低4学級ということと少し食い違いが出るのではないかと。それからそれに対して「これは再編ありきではない」と教育長が答弁されています。これから進んでいくことだと思うのですが、この地域は世界農業遺産に指定されており、高齢化と農業者人口の減少で後継者が大きな課題となってくるであろうと思いますし、職業学科においても大学進学を考える子供たちが必ず出てきますし、それらにも対応する教育が必要である、それから高齢化社会においては介護を含めた学科も考える必要があると思うのです。今の資料の一番下のところに既存の校舎等の活用にとらわれないという一言に私は思うのですが、上沼高校に出来たような学科、それから鶯沢工業高校と岩ヶ崎高校、既存の学校、校舎・敷地にとらわれないで新たな学校、例えば栗原農業と若柳が統合して迫桜高校ができたような、そういうことも考えられるということでしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

まずお話がありました11月3日の河北新報の記事につきましては、その前日、11月2日に開催しました第7回県立高等学校将来構想審議会、有識者の方を委員とする会議ですが、その中の議論が記事になったものであると推察します。その内容であるならば、将来構想の答申に当たり最終案を検討したという内容のものでして、現在は審議会から県教育委員会に対しまして答申を正式に頂き、その答申を踏まえて県教育委員会におきまして構想を策定する作業を行っている段階です。その答申案の中にありました記載について先ほど触れていただきましたけれども、まず、適正な学校規模という観点では、4～8学級を目安とするという記載があります。生徒の興味や関心、多様な進路希望に対応するため、あるいは学校行事を充実させるため、その為には、ある程度の規模が必要だろうという考え方でまとめられているもので、その規模としては4～8学級を目安にするということです。あわせて現状で4～8学級を満たさない学校につきましては、今後在り方を検討する

こととされておりますけれども、それを進めるに当たっては、地域の実情に応じた特例的な扱いも検討するべきであると触れられております。また特色ある取組を展開する上では、例えば新しい学習形態を導入するとか、お話にありましたとおり、専門性の高い特徴的な教育を行う、そういう学科については、学級規模の特例も検討してみてもよいのではないかとということです。その内容を踏まえて高橋教育長が、再編をするために検討するのではなく、深い学びを実現するために必要な学科がもしあればということ視野に入れて今後の在り方を検討した方がよいのではないかと趣旨のコメントをしたと受け止めております。まず前段にお話があったことについてはそのような内容と理解しております。

もう一つは、本日お示した資料2の2ページ目の一番最後にあるところですが、こちらにつきましても新たな職業教育拠点校を設置するとした場合にどのような職業系の学びを配置するかということも検討することになるかと思いますが、その際に既存の学校の施設を有効に活用するという条件をはめてしまうと、新たな職業系の学びを充実する上で限定的に考えざるを得ない可能性があるのではないかと。したがって、新たな将来像を具現化するに当たっては、既存の校舎を活用する以外の方法も含めて広く検討してみるとよいのではないかと趣旨で書いているものなので、現段階におきましては、どちらのパターンも視野において、大きく広く検討していこうということでの記載であり、そういう意味では柔軟性を持たせるという観点での内容と御理解いただければ幸いです。

【南郷高等学校同窓会 佐々木会長】

そうすると今おっしゃった4～8学級というのと、専門性の高い学科については特例を設けると、今ここで例えば2クラスという特例も認められるのかとなると具体的には答えられないかとは思いますが、特例というのはどのくらいのことまでが特例なのかということが一つ、それと私は商業高校の教員でしたから商業高校を知っていますし、松山高校さんもよく知っておりますが、農業学科につきましても必ず農業実習を伴う農地、それからビニールハウスとか水田とか農業高校独特の施設設備が必要になりますし、職業学科ですとコンピューター、家庭科ですとそれに付随した調理室ですとか被服室とかが必要になると思います。工業を含めると新たな学科の設置、県にそれだけの財源があるのかと思います。学科に伴う施設が必要だということは頭に入れてあるとは思いますが。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

まず、特例の考え方についてですが、特例なので最初からこういうパターンと想定しているものではありませんが、書きぶりとしてしまえば学校の規模として適正な大きさというのは4～8学級であろうというのは答申の内容に記載されているとおりで。それを現状で満たさない、すなわち1学年3学級以下の高校は再編ということをもろろん考える必要はあるものの、3学級以下でも4学級～8学級でないと残れないということではなくて、地域の実情あるいは通学の実状なども含めて検討すべきだということで、3学級以下が再

編ではないという特例があってもよいのではないかという考え方が示されており、現在それを検討しているところです。

それと施設に関しましては、おっしゃるとおり実際に新しくハード整備が行われるということであれば当然お金がかかりますので、それも検討の一つに加えざるを得ないかと思っております。2つめの質問に関しましてはそういう意味では新設も含めて考えるという広い視点で議論していただきたいと思っております。

もう一つ、特例という部分に関しましては、今現在1つの学級の人数は40人を基準としているところですが、専門的な学びを展開する上で、場合によってはそれによらない人数というものもあり得るのではないかということで答申を頂戴しておりますので、このことについて今後我々の中で議論していくことにしております。

【高橋教育次長】

佐々木委員よろしいでしょうか。それでは他の委員の方から。徳能委員どうぞ。

【松山高等学校 徳能校長】

松山高校の徳能でございます。先ほど規模の特例ということがありましたので、規模のことについてです。松山高校は2クラスの学校ですので、宮城県の中で一番小さな規模の学校になるかと思えます。県内では松山高校、南郷高校、蔵王高校ということで3つの2クラス規模の学校があります。宮城県全体で全日制の独立校が64校あるかと思えますが、そのうちの3校が2クラス以下ということですので、パーセンテージですと5%ということになります。私もどのような学校が良いのだろうか、松山高校は本当に必要ないのだろうかとか、いろいろと考えた時に、全国の状況を調べてみました。村井知事がよく比較をする広島県の状況を調べてみましたところ、広島県では全日制独立校76校のうち実に20校が2クラス以下の学校でございました。パーセンテージにすると26%です。宮城県の5%に対してこれは割合として大きな数値だと思えます。そういう小さな学校も大切にされているのだということを感じました。広島県でも、もしかしたら再編の計画が進んでいるのかもしれませんが、そのことは分かりませんが、大崎市内には6校の学校があり、古川、古川黎明、古川工業、岩出山、鹿島台、松山ですね。そのうち2クラス以下の学校が1校ですが、広島県でいうと人口規模が同じくらいの尾道市、13万人の市民がいる市になります。尾道市には県立の学校が6校ありましてそのうち2クラス以下の学校が2校あります。大崎市と一緒だと思えましたので、尾道市は島も抱えておりますが、一方で大崎市は東西で80kmもある広大な市ですので、その辺のことを考えれば必ずしも今議論になっている学校の再編というものは本当に必要なのかなと改めて考えたところです。先ほどお話のあった県立高校将来構想答申の中で学校規模の話とともに、不登校経験者や中途退学者の状況というものも取り上げられておまして、宮城県の中学生の不登校出現率は2016年には全国1位になったことがございました。宮城県の中での不

登校対策というものは喫緊の課題なのだと思います。それを考えた時に、松山高校は不登校生徒が沢山入学しており、その点、生徒たちに手をかけて、卒業までもっていけるような学校経営をしております。そういうことが出来ているこの松山高校を無くしてしまうというのは今すぐに必要なことなのかと。不登校対策がきちんとできた後でそういうことが行われてもよいのではないかと、学校の者としては考えてしまいました。そんなに早急に学校再編を進めなくてはいけないのか、疑問に思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

再編の部分に関しましては、1回目、2回目の会議でも資料でお示ししておりますけれども、状況としては厳しいと受け止めざるを得ないと思っております。答申の中で適正な学校規模は1学年4～8学級を目安とするとあり、現状で適正規模を満たさない学校については再編を検討することとしますとありますが、その検討に当たっては地域の実情を考慮した上で特例的な扱いも含めて検討しますという書きぶりが続いていますので、基本的には個別に検討すべきことなのだと思います。

【高橋教育次長】

徳能校長からお話があった不登校についてですが、御指摘のとおり非常に厳しい数値であることは県教育委員会だけでなく各市町村教育委員会も同じように大変憂慮している状況であります。それらの対応については県教委でも様々な取組をしておりますし、もちろん市町村教育委員会とも連携をして、仮に不登校となった子供たちであっても、様々なカウンセリング等をしながら改めて学校に行けるようにという視点で進めているのですけれども、高校での不登校対策を松山高校だけで行わなくてはならないのかということ、実績はもちろん高く評価するのですけれども、こうした状況の中で残していかなくてはならないのかということ必ずしもそうではないのかなと。新しい学びの中で、資料2の2ページにお示ししておりますけれども、こういう観点でいかに新しい学校の中で取り組むかということも一つの考え方ではないかと思えます。それからもう一つは、学び直しについて前回の会議の中でいろいろ話が出ておりましたけれども、多部制単位制定時制の田尻さくら高校という学校もあって、学びの多様性というもう一つの観点からの取組もあるのかなと思っております。

今の御質問にはこういうことでお答えしましたけれども、他の委員の方、御意見がありましたらいかがでしょうか。今日こういう形で再編統合による職業教育拠点校の設置を一つの案としてお示ししているのですけれども、地域の教育長の御意見を少しお伺いしたいと思うのですが、涌谷町の佐々木教育長お願いします。

【涌谷町教育委員会 佐々木教育長】

前2回の会議を経て今回の会議があるわけですから、私の方からは今は発言することは

ございません。

【高橋教育次長】

それでは大崎市の熊野教育長お願いします。

【大崎市教育委員会 熊野教育長】

大崎市教育長の熊野でございます。個人的な思いでもよろしいでしょうか。資料2に職業人材を育成するということが載っていますね。果たしてこの職業人材を育成するという表現がこれから50年、100年先と通用するかという疑問が個人的にございます。調べてもらったところによると、文部科学省に職業教育課という課があったのですが、これは廃止されています。言ってみればキャリア教育とかそれから産業教育とか、この間は産業フェスティバル、産フェスをやったところであるので、言葉の整理としては、大学を卒業したって職業人なのですよ。職業人材を育成するという言葉はここで考える頭の言葉として適切なのかという疑問があります。少し御検討いただければと思います。では何が良いかというと、あまり案はないのですが、例えば「学びの選択幅を確保して志の高い人材を育成する」とかですね。宮城県は志教育を推進している県の一つだと思っております。これはいわゆる未来志向の発想であると認識しているのですが、その点で検討を要するかなど。それと一番下にある職業教育拠点校の設置という言葉も、言葉としては馴染まないのではないかと思います。一般的に私たちが聞く分には職業教育は分かるのですが、分かりやすく良いのですが、これを未来の子供たちが入学を考えると頭の言葉として使ってよいかという疑問です。御検討お願いしたいと思います。

もう一点あるのですが、同じく資料2で、工業、古川工業と枠が出ていて、対面に田尻さくら高校があるのですが、中には普通科、農業科、家政科とあって、そして工業科とあって、ここに学び直しが出てくるのはいかがなものかという思いはしないでしょうか。これは配慮であって、田尻さくらでも当然高等学校の学習指導要領に沿って教育が行われているわけであって、きめ細かな教育をしているという特色です。したがって学び直しは下ろしておく方がよいのではないかと思います。

それから三点目なのですが、私たち大人の会議の中では学ばせる発想、こういう人材が求められているという発想に加えて、これから学ぶ側からの発想の重視が求められるのではないかと思います。その発想を是非忘れないで取り込んでいただければという思いがあります。そうすると2枚目ですね、職業系の学びの充実、この「職業」は名前を変えた方がよいのではないかと思いますし、基礎学力の定着を視点1、2に並べると、子供たちが入りたい学校というイメージが湧くかどうか。例えば視点1であれば社会実践系の学びなどはいかがでしょうか。それから視点2だと、社会の中での学びがこれから多くなるのだと思います。地域も含めて教員のみならず、地域の会社の方々と

か農業の方々が子供たちに指導していく時代に入ってくるのではないかと思います。地域ぐるみの教育，そういう意味では実践を通した基礎学力の定着だったらよいのかなど。これらは例ですけれども，是非検討していただければと思います。次に少しアイデアもありますが一旦マイクを置かせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

ありがとうございます。確かにお話を頂戴した点についてなるほどと理解するところも多々ありました。この点につきましては言葉の整理も含めて検討させていただきたいと思いますが，職業人材を育成すると資料2の1ページ目に書いてありますが，その言い方が的を射ていないという御指摘かと思えます。もう一つは今ある学びを継続することはいかがかということここでここに楕円形5つを入れたという趣旨でありました。その言葉の表現といたしましてはいろいろな考えや目線で見られてしまったということはあるかもしれませんので，いただいた御発言の御趣旨を踏まえてどういう表現が良いのか改めて考えたいと思います。

【高橋教育次長】

他にございますでしょうか。では，今日御出席いただいております校長先生から何名か聞かせていただきたいと思います。小牛田農林高校の榎野校長お願いします。

【小牛田農林高等学校 榎野校長】

前回も同じような発言をさせていただいたのですが，地区としてまたは全県的なバランスはいかがでしょうかとお話しをさせていただいたかと思えますので，今回いただいた資料2を見ながら東部ブロックは今このようなバランスになっていると思いますけれども，東部ブロックだけではなくて，今は全県一学区となっておりますので，県全体としてはどうかという視点をここに盛り込むかどうかは別として，持った上で検討するとよいかと思っております。

【高橋教育次長】

ありがとうございました。次に涌谷高校の榎野校長お願いいたします。

【涌谷高等学校 榎野校長】

涌谷高校の榎野でございます。前回，前々回と話をした中で，大崎地区の子供の数が激減していくところからこの東部地区を検討しなければいけないというところまでは皆さんが意見を出してその通りだという話だったかと思えます。これが実際に話を進めていったときに，あと何年後をにらんで進めていく話なのかということも一つ大事になってくるかと思っております。これは2年，3年後にやっといこうというものなのか，それと

も5年後、10年後なのか。それによってやはり各学校や地域の課題等いろいろな部分も変わってくるのかと思います。また新しい学校を作るという時に、県にそれだけの経済的な余裕があるのかどうか。今年は県、というよりも日本全体的に異常気象で非常に悩まされました。そういった中で、全国ではエアコン設置というものが必須になってきている中で、宮城県では各市町村では設置をするというところが多いのですけれども、県では予算が足りないということで設置が難しいという状況です。やはりそのような喫緊の課題を是非解決していきながらということになると、これが何年後からやっていくものなのかが分からないと、話の進め方も変わってくるのではないかと考えております。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

何年後と特定することは難しいと思いますが、来年、再来年という急な話ではないかと思っております。当然準備も必要ですし、学びの充実という観点で、学科あるいはカリキュラムを組んでいく必要があります。更に新たなハード整備が伴って、学びの充実を果たそうとするのであれば、やはりそれなりの、数年単位のまとまった時間が必要であると思っておりますので、それらも今後の検討の議論となると思っております。そういった点では来年、再来年ではないにしても、いつということはいづらいつい状況であると思っております。ただしお話にもありましたとおり、今後少子化が進展していく中では、放っておくわけにはいかない課題だと思っておりますので、そういう意味ではこれから策定いたします第3期の将来構想の期間中には何らかの形で解決すべき課題なのではないかと受け止めをしております。仮にハード整備を行うとなりますと、エアコンのお話もありましたけれども、それも含めた教育行政上の課題解決の整備も必要となりますので、財政的な投資効果というものもしっかりと見据えた計画が必要になると考えております。

【高橋教育次長】

既存の校舎の改修となれば、早い段階でできますし、幅広に考えているという最初の説明のとおり新設となれば、5年、6年とかかりますし、その辺のスパンについては考える必要はあるのかと考えております。

余談ですけれども、おっしゃる通り、普通教室については冷房の整備がすぐにできないということですが、特別支援学校の方についてはすべて整備するというところで調整を進めているということは御理解いただきたいと思っております。通常の高校の普通教室までは財政状況が厳しいということになっているわけがございます。

それでは、次に鹿島台商業高校の三浦校長お願いします。

【鹿島台商業高等学校 三浦校長】

鹿島台商業高校の三浦でございます。これまで2回にわたって本校の実情をお話させていただきました。それから商業教育の継続ということをお話ししながら本校の人材

育成，将来社会に貢献できる人材育成ということでやってきたということまでお話しさせて
いただいております。加えて中部地区からの生徒の割合が7割ということで大崎地区だ
けでなく，中部地区との関わりもしっかりと見据えた中で検討していただきたいと。そう
いった中で本校は3クラス規模の学校で，現在定員はその7割というところでございます。
そういう実態を踏まえると再編統合はやむを得ないのかなという思いは持っております。
ただ，商業教育，専門教育的なところでの学校というものは現に必要であるということ
を踏まえての今回の職業教育拠点校という設置の方向性ということで，視点1，視点2とい
うことで出しているというところでは，私は肯定的な受け止めをしております。
それと特例というところのお話が気にかかっておりまして，いろいろな実情があつて，各
校とも訴えてきていることがあるのだと思います。そのことをどう捉えていくのかという
ことが，将来構想を踏まえて学校づくりをしていく中で必要なことではないかと。言え
ば言った者勝ちということでは困りますし，共通理解をしながらやるのが大事なのでは
ないかと思ひながら聞いておりました。ただ，ここを出していただいた方向性としては，鹿
島台商業としてもある程度致し方ないという思いを持ちながら，何とか商業教育を継続し
ていきたいというところをお願いしたいと思っております。

【高橋教育次長】

今日は高校の将来像についてお示ししましたが，先ほど熊野教育長からも一言あるよ
うなお話だったので。

【大崎市教育委員会 熊野教育長】

資料2の2枚目ですが，「基礎・基本」，先ほどもお話しさせていただいたとおり，職業
教育ということに少し違和感があるということと，「基礎・基本」，「基礎学力」というのは
子供たちにとって魅力ある言葉であるのかと。新しい学校としては魅力があるのかという
思いです。手法のところ「専門分野における基礎・基本の重視」とありますが，「専門分
野における知識・技能の重視」とかですね，その方がよろしいのではないのでしょうか。細
かいところで大変申し訳ないですが，そうすると手法で四つほどにまとめてみたのですが，
手法の一番下の「多様な進路希望への対応」は漠然としすぎて分からないですよね。あら
ゆるものが入る。ここでは，どうなのでしょう。また御意見があればお願いしたいので
すけれども，「多様な資格取得の重視」などという表現はいかがでしょうか。

それからもう一つは地域との関連が非常に強くなる新たな学校になるのではないかと思
います。したがって3番目としては，「地域と連携をとったパートナーシップの充実」とか
ですね。そうすると子供たちにとって何となく魅力があるかなと思います。それから4点
目としては，新たに，今までも少し言われてきたのですけれども，対人関係の問題です。「社
会人としての高度の対人関係の重視」などいかがでしょうか。

そうやって見ますと視点2の方は「基礎学力の定着」というよりはむしろ「実践を通し

た学力の定着」という視点でもって、手法には、またここに基礎学力が関わってくるので、最近言われているアクティブラーニングの中で「主体的で対話的な学習を中心に未来指向の学力を大切にした学びの実践」としてはいかがでしょうか。それから「習熟度」と言うとはやはり基礎・基本で、繰り返しさせられるというイメージが非常に強いので、2点目としてはICTの活用や最近言われている反転学習などきめの細かい学習指導としてはいかがでしょうか。それから手法の視点1にあった「学習の選択幅を拡大した教育内容の充実」はもしかすると視点2の方ではないでしょうか。それからその下の「インターンシップ等の実践的教育」、これもその生徒にとってたった一つのインターンシップというものではなくて、多様なインターンシップを経験させることによって、社会実践的な教育を通し志教育の充実を図るというのはいかがでしょうか。これがもしかすると学力の定着のほうに入ってくるのかなという思いで見えておりました。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

様々な御指摘をいただきまして整理が必要な点もあるかと思いましたが、また、再編整備による新たな学校によるというよりは、県全体で取り組むべきポイントもいくつか含まれていたと思いますので、参考にさせていただきながら言葉の整理について考えていきたいと思えます。

【高橋教育次長】

貴重な御意見ありがとうございます。その他、委員の方々からありませんか。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

個人的な意見になりますが、職業教育とかその辺で進んでいるようすけれども、先ほどのお話ですと数年単位のまとまった時間が必要であるということだったのですね。その間にめまぐるしく変わるこの世の中、どんどん先に行ってしまうと、私たちがここで考えて、あるいは教育庁でお考えになったことが置き去りにされる状況にならないかと。50年、100年先だけでなく数年単位先のことも予見できない状況だと思ふのです。ですからここで職業教育を考える時に、農業、家政、商業、工業と、このような分類でやっておりますけれども、もっと先進的な考え方というものが必要なのではないかと。私たちはどうも旧態依然の頭で、昔あった分け方でもって、どこの学校にこの学科を置けばよいというようなことでやってしまうと、学校を選ぶ子供たちから見てとても魅力があるとは言えなくなってしまうのではないかと思ふのです。成績で学校を選んでいくわけではないですからね。卒業した後の自分の人生とか、自分の職業とか、どういうふう生きていくかということを考えて学校を選ぶのですから、居場所としての学校だけにこだわらずに、その先の希望を見させる学校、そういうものを目指さなくてはいけない。その為には今の時代のずっと先にあるものを見えるようにしてあげなくてはいけないと。そういう学校をまず

はここで示していかななくてはならないと。

大崎市教育長さんからいろいろとお話がありましたけれど、私たちよりずっと先に進んだ言葉を知っていらっしゃるの、専門家ならばもう少しその辺の用語を教えてくださいなと思っております。最初の会議の時に、私は丁寧にやるという上にもっと慎重にやってほしいということを意見としてお話ししたと思うのですが、慎重とは何かと言うと、この中で皆分かっている言葉ではなくて、これを読む地域の方々、それから保護者、中学生、子供たちですね、子供たちがこれを読んだ時にどう思うのかという視点から考えてほしいというつもりで、慎重をお願いしますと。残念ながら2回目の時に、タイプ1、タイプ2のような表現が出てきて、私は違和感を覚えました、今回もまたいろいろなところで指摘されているように、もう少し用語を選んでいただきたいというところはあります。これを見て、再編統合する側の論理が表に出ていて、その学校に入る子供たちの気持ちというものが見えない気がします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

用語の使い方、分かりやすい言葉の使い方など、先ほどの熊野委員のお話からもありましたけれども、その辺の使い方というものも、先ほど申し上げたとおり整理したいと思います。

【高橋教育次長】

我々としては丁寧に説明をしたいということで、一つ一つのステップを踏んで説明をしていると考えております。奥山委員からありました、これから入ろうとする子供たち、それを後押しする保護者の皆さまから選んでいただけるような学校を作りたいという気持ちは我々も同じです。今日はより具体的なお話をさせていただいた中で、今お話があった点も考えていかななくてはならないと思います。南部地区で進めている柴田農林と大河原商業にも検討にかなり時間をかけておりますし、あちらは建て直すということで、どうしても何年かはかかってしまっているということはあると思います。その中でできるだけ長いスパンで将来を見据えてどこまで考えられるのかということについては、我々も大きな課題と思っているのですが、決めてから実際に開校するまで、新設すればどうしても時間がかかってしまうことはやむを得ないのかと思っております。できるだけ長い将来を見据えた形で学校を考えていくということが大事な視点であることは、おっしゃるとおりだと思います。他にございませんか。徳能校長。

【松山高等学校 徳能校長】

先ほど私や佐々木委員から話をしました、規模の特例ということはこの後検討していただけの余地があるのかないのかというところが一つ、それから現時点で職業教育拠点校

というところに話が集約されていっている気がするのですが、先ほど登米総合産業高校のようなお話もありましたので、登米総合産業高校の評価というものですか、それができたことで地域がどんなふうに変ったのかとどんなメリットがあったのかとか、どういところが問題点なのかというような、評価と課題を次回までにお話ししたいと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

登米総合産業高校の評価につきましては平成27年度にできた学校ですので振り返る部分についてはそれほど多くない部分はあろうかと思えますけれども、何かお伝えできる部分があれば次回の会議にお示ししたいと思います。こちらは学校ができた後に地域パートナーシップ会議など、地域といろいろな関わりをもって学校運営しておりますので、その視点から何かお伝えできることがあればお話しさせていただければと思います。それから、お示ししました再編統合による職業教育拠点校の設置に関しましては、最初から特例を当てはめる高校として設置するのはいかがなものかと思っております。

【高橋教育次長】

登米総合産業高校について、高校教育課から何かありますか。

【事務局（長田高校教育課キャリア教育班長）】

高校教育課の長田です。登米総合産業高校ですが、先ほどのお話のとおり、地域パートナーシップ会議におきまして地域と連携した専門教育をしているところです。様々な取組、企業、行政などと連携しまして地域の課題を解決するために、生徒と大人が話し合いながら深い学びを実現していると聞いております。

【高橋教育次長】

では、そのところは次の宿題ということで。登米総合産業高校についてはそういう形にしたいと思います。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

次回までに是非調べてきてお知らせいただきたいことが一つあるのですが、先ほどどなたからかお話が出たと思いますが、学区が全県一区になっていますよね。かつては学区があってその中で志願校を決めると。今は全県どこでも好きなところに行けるようになっていきますよね。少子化という状況が分かっている中でそれが実行されたわけなのですけれども、その結果現在どうなっているかということについては何も聞いていないのですが、各地区市町村からどのような生徒の流れがあるのかということと、今の定員割れというものとどのような関係があるのかということが分かれば、次回お話ししたいと思いますけれども。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

全県一学区につきましては、以前の将来構想審議会の検証で「大きな問題は出ていない」という答申を頂きました。あわせて毎年高校入試に当たり予備調査や実際の倍率、志願状況などを見ておりますが、仙台地区間での出入りは多少ありますが、どこかが大きく減ってどこかが大きく増えたということは見受けられないと思います。定員割れとの関係につきましては、全県一学区という影響が直接どこかの高校に及んでいるということよりは、少子化の影響が大きいものと考えております。

【高橋教育次長】

全県一学区については何年か前に検証したことでございますので、確認ということであればそれも含めて次回準備できる範囲でということにしたいと思っております。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

関連して、私立高校というものがありますから多分そこへの流れもあると思います。例えば、南部地区ですと来年の卒業生が1,400数人という数値がありますが、1回目の予備調査では1,302人が南部地区の学校を希望しているのですね、そうするとその差というものはどこへ行ったのかなということが疑問に思うのです。大崎地区も、1,861人の中学校卒業生がいるのですが、公立の全日制の学校を希望しているのが1,556人。私立高校に流れているのか、あるいはどこか他地区に行っているのかとか。各地区とも中学校卒業生に対する公立高校志願者数が違ってきているので、そういうところでどのような流れになっているかについて疑問を持っています。それがあまり大きな問題はありませんと一言でまとめられるのではなく、数字を出していただいて、「何の影響もありません」と言ってもらえれば私たちが安心してその先への話合いができると思うのですが、そういう調査はしていないですか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

調査といいますと、予備調査は実数ですし、将来構想の答申案の中で示しているものはその地区の中学校を卒業する生徒数ですので、私立も含めて志願する先とは一致しないのはそういう要因がいろいろあつてのことだと思います。いずれにしても既存のデータの中でお示しできるものがあれば、次回の会議において数字を報告させていただきたいと思っております。

【松山高等学校教育後援会 奥山会長】

よろしくお願ひします。全県一学区で仙台一極集中しているような状況に見える、印象として見える、そういうことがありながら地方の学校が定員割れしたから再編の対象になりますということはどうもしっくりしないところがあつて、このようなお願ひになっていま

す。そこを御理解いただきたいと思います。

【高橋教育次長】

全県一学区につきましては4年前に検証しております。間違いなく数値で。先ほど室長が言ったのは、その分析の中で当初考えた様々な課題等が発生するのではないかという懸念もあったのですけれども、すべての地区の数値を確認したところ、大きな変化というほどの数値がなかったという結果が出されているので、ただ大丈夫だと申し上げているわけではなく、そういう結果が出されているということをお話ししたということです。その点につきましては次回できる範囲でお示ししたいと思います。

今回御議論いただいて、我々としましては今日お示したこの地区の再編統合による職業教育拠点校の設置を軸にした形でさらに進めた案を次回お示しして、また宿題もいただきましたのでその分をお答えして、各委員の御理解をいただきたいと考えております。それでは、事務局にお返しします。

5 その他

【司会】

ありがとうございました。次第「5その他」ですが、何かございますでしょうか。それでは、事務局からですが、次回の会議は、来年の1月下旬開催を予定しておりますが、詳細な日程につきましては、皆様に日程を照会した上で事務局から御連絡いたしますのでよろしく願いいたします。

6 閉会

【司会】

以上をもちまして「第3回大崎地区における高校の在り方検討会議」を閉会いたします。どうもありがとうございました。